

研究の概要

- ・ 児童の実態調査を行い、本校の児童の実状把握をする。
- ・ インターネット（スマートフォン、携帯電話）を正しく使うために大切なことを学び合い、人とのかかわり方について考えていくことができるように研修をすすめる。
- ・ ネットの問題について講師を招くなどし、教職員の研修を図る。【別紙1】
- ・ 自分の思いを自分のことばや文章で相手に伝えるスキル学習の研究をする。
- ・ 保護者にもスマホや携帯の使い方について考えてもらえるよう啓発活動を進める。

領域	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
指導者	6年担任 生徒指導担当 推進教員	5年担任 推進教員	4年担任 外部講師 (NPO法人企業教育研究会)	6年担任 外部支援 (兵庫県立大学学生)
実施日	6月12日	7月1日、13日	9月10日	9月14日、10月15日、 10月26日
取組名	だから悪い	携帯電話の使い方を 考えよう	ネットいじめ防止プログラム ～インターネット安全 教室～	室内小スマホ・ケイタイの 使い方4箇条
目標	いじめについて、傍観者の態度を改めようとする気持ちをもつ。	自分たちのSNSの使い方を振り返るとともに、これからのSNSとの付き合い方について考えることができる。	インターネットの危険性を知ること、自分の人権、他の人の人権を大切にできる態度を育てる。	SNSについて学習し、自分たちで学校のルールを考え、使い方を考えいく力を身に付けさせる。
資料名	「だから悪い」『友だち』（県教育委員会）	みんなで考えよう、ケータイ・スマートフォン（ソフトバンクCSR室）		
指導内容や指導方法の工夫等	本時の学習を経て、小中連携いじめ防止会議に参加し、学習の成果を発表するようにする。	SNSに関するDVDを視聴し、おかしいと思う点について話合う。 DVDの続きを視聴し、自分ならどうトラブルを解決するのか考える。	インターネットの危険性を知り、利用する上でのルールを自分たちで考え、実生活に行かせるようにする。	SNSについて専門的に研究されている学生に各グループの話し合いに入ってもらうことで、情報モラルについてそれぞれのグループでしっかりと話し合うことができるようにする。 自分たちで考えたルールを全校生に広める。

領域	国語			
指導者	3年担任 支援教員			
実施日	1月26日			
取組名	心に感じたことを中心 に感想を交流しよう			
目 標	主人公がじさまを思 う気持ちを読み取り、 優しさが強さであるこ とに気づいていく。			
資料名	「モチモチの木」 (国語光村3年下)			
指導内容 や指導方 法の工夫 等	子供たち一人一人の 感想や疑問から学習課 題を設定し、クラスの 課題として話し合い活 動を展開する。 学習後には、感想や 自分の考えを友達と交 流し、一人一人の感じ かたの違いに気付くよ うにする。			

実施日：6月12日（4校時）	
領 域：道徳	
取組名：だからわるい（資料「友だち」（県教育委員会））	
対 象：6年生	実施場所：6年1組教室
ア ねらい フェアでないことや、放っておけないことへの関心を高め、傍観者的な態度を改めようとする意欲を培う。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 1. 猫（弱者）と犬（強者）の関係や状況を文章から把握させる。 2. なぜ女の子の人が男の子たちをしっかりとつけたのか発問することによって、見ているだけで何もしなかった行為について考えを書き込ませる。 3. 書き込んだ自分の考えをペアトークやグループトークで話し合わせる。 4. 学習の感想を書かせる。	
 	
ウ 連携先：神戸市立丸山中学校	
エ 連携にむけての取組 小中地域いじめ防止会議での取り組み発表に向け、児童や生徒が他人を思いやる心が育つためには、どのように啓発していくのかを神戸市立丸山中学校と話し合った。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 室内小のいじめ防止のための基本的な方針を全職員で確認し、授業内容を作成した。	
カ 評価の方法 感想（いじめ防止会議の後）	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み物資料を通して、学級の仲間との関係を考えたり、自分を見つめ直したりするよい機会となった。そして、いじめを許さない心を育むための学習ができた。 ・ 取組をもとに、神戸市立丸山中学校で行われた小中地域いじめ防止会議で、児童代表が保護者や地域の代表の方にいじめ防止に向けての発表を行う予定。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止に関しては授業を中心に継続して取り組んでいく必要がある。 ・ 取組の内容をいじめ防止会議の参会者だけでなく、他の児童・保護者・地域の方々に広める方法が課題である。 	

実施日：平成 27 年 7 月 1 日（4 校時）、13 日（2 校時）	
領 域：特別活動	
取組名：携帯電話の使い方を考えよう	
対 象：5 年生	実施場所：5 年 1 組教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの SNS の使い方を振り返るとともに、これからの SNS との付き合い方について考えることができる。 ・ 児童一人一人が自分の人権、他の人の人権を大切にできるようにし、実生活に行かせる態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <p>《第 1 時》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 友達にかけられて嫌な言葉、されて嫌なことを振り返り、人によって嫌なことの基準が違うことに気づく。 2. SNS に関する DVD を視聴し、おかしいなと思う点について話合う。 <p>《第 2 時》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DVD の続きを視聴し、自分ならどうトラブルを解決するのか考える。 2. トラブルの解決の仕方を話し合う。 3. 学習の振り返りを書く。 	
ウ 連携先：ソフトバンクモバイル株式会社 CSR 室	
エ 連携にむけての取組 <p>ソフトバンク CSR 室には、あらかじめ本校の職員研修に参加してもらい、本校の実態に合った内容の DVD（ラインでのトラブル）を提供してもらい、SNS 上でも人を思いやる気持ちが大切であることを考えることができるようにした。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <p>一人一人の感想を学級全体に広め、今後人の気持ちを考えた対応ができる心を育てていく。</p>	
カ 評価の方法 <p>学習の振り返り【別紙 2】 効果測定</p>	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ じっくりとクラスの中で意見交換をする時間をもてたため、「こんなことされたら嫌だな。」ということをお互いに聞き合うことができ、うなずきながら聞いていた児童もいた。 ・ DVD を見て、「私もこんなことある。」と感じる場面が多かったようで、自分たちの振り返りにもなったようだった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話の使い方において、子供の中での規範意識の差が大きかった。 ・ 「僕は平気」という言葉で片付けてしまおうとする子供もいた。 	

実施日：9月10日(3・4校時)	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：ネットいじめ防止プログラム～インターネット安全教室～	
対 象：4年生	実施場所：多目的室、4年教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットのよさや危険性を知り、利用するうえでのルールを破ると人を傷つける人権問題になることを理解する。 ・ 危険性やルールを認識することで、児童一人一人が自分の人権、他の人の人権を大切にし、実生活にいかせるようにする。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>3校時 講師によるインターネット安全教室【別紙3】</p> <p>4校時 担任による授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ふだんの自分のインターネットの利用方法について紹介しあう。 2. ネットについて危険な事例を知る。 3. 危険性やルールを知り、何に気をつければいいのかを話し合う。 4. 感想をもつ。 	
ウ 連携先：NPO 法人企業教育研究会	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>携帯所持率調査を事前に行い、児童の実態把握をし、NPO 法人と連携し一緒に授業を行うことで子どもたちにわかりやすくインターネットのよさや危険性を伝えることができるように努めた。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の感想をもとに、児童に何を指導していかなければいけないのかを検討し、今後に生かしていく。 ・ 全学年を通して、相手の考えを受け止め自分の考えを言えるコミュニケーション能力を育てることで、相手を理解し、思いやる心を育てている。 	
<p>カ 評価の方法</p> <p>児童の感想【別紙4】</p>	
<p>キ 成果</p> <p>トラブルの低年齢化という観点から対象を中学年にしたことで、SNSのマナーやモラルを早くから学ぶことができ、トラブルの未然防止に役立つことが期待される。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>一度学習したからといって、すぐに実生活に活かすことができるかという点と難しい。また、スマホやケイタイによる新しい課題が出てくると思われるので、繰り返し使い方について考えていく機会を設ける必要がある。</p>	

実施日：平成 27 年 9 月 14 日（2～4 校時） 10 月 15 日（5・6 校時） 10 月 26 日（4・5 校時）	
領 域：総合的な学習	
取組名：室内小スマホ・ケイタイの使い方 4 か条を決めて発信しよう	
対 象：6 年生	実施場所：6 年教室他全 6 教室 各学年教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS について学習し、自分たちでルールを作り、全校生によびかけることで、学校全体で、ネットのトラブルから守ろうとする心を育てる。 ・ 危険性を知ること、自分の人権、他の人の人権を大切にしようとする態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットの使い方ですぐ便利な事や困ることなどを出し合う。（グループ） ・ 自分たちの学校では、どんなことが危険なのかを考える。（グループ） ・ グループで出した意見を出し合い 4 か条を決める。（全体） ・ 各学年に応じた内容で学校の 4 か条を知らせる方法を考える。（グループ）【別紙 5】 ・ 各学年に室内 4 か条を知らせに行く。（グループ） 	
ウ 連携先：兵庫県立大学竹内准教授 および兵庫県立大学学生	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に、学生および竹内教授と打ち合わせを行い、子供たちが自分たちで「ネットトラブルを防止するためにどんなことに気をつけるとよいか」ということを考えることができるように進め方を研究した。 ・ SNS について研究をしている県立大学の学生を、子供たちの話し合いのグループに 1 名ずつ配置することで、一人一人が自分の意見を発言できるようにした。ネットの中で他人を傷つけてしまうことなども十分に話し合えるようにした。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果測定をもとに児童がどの程度理解をできたか、またどんな点が不十分なのかを研究し今後の指導に役立てていく。 ・ 教職員全員で最新の事例を学び、実践に役立てる。 ・ 6 年生の取組を全校生に発信することで 6 年生自身がより理解をすることができるとともに他の学年に広め全児童・全職員で取り組むことができる。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果測定（6 年） ・ 6 年生感想【別紙 6】 発表を聞いた学年の感想【別紙 7】 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少しずつ、子供たちの情報モラルが向上してきている。導入時には「自分には無関係だ」と感じていた子も、学習が深まるにつれ、自分のこととしてとらえられるようになってきた。 ・ 自分たちで 4 か条を作り他者に発信することで、子供たち一人一人が、よりモラルやマナーを守らなければいけないという意識をもつようになってきている。 ・ 受け身の学習ではなく主体的に考える場面が多い学習展開なので、終始意欲的に学習に向かうことができた。 	
ク 課題 <p>日常生活レベルまでには、学習の成果が表れていない。地道に継続して取り組んでいくことで、平素からモラルをもって行動できる子供たちを育てていかなければならない。</p>	

実施日：平成 28 年 1 月 26 日（5 校時）	
領 域：国 語	
取組名：心にひびいたことを中心に感想を交流しよう	
対 象：3 年生	実施場所：3－1 教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の気持ちを読み取り、主人公の、優しくて真の強さを持った温かい生き方に共感できるようにする。 ・ 斎藤隆介の作品を読み、登場人物の会話や行動などの叙述に着目して、心情の変化を想像しながら読んだり、一人一人の感じ方に違いがあったりすることに気付かせる。 ・ 作品の感想を紹介する中で、自分の思いを相手に伝えることができるようにする。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文を読み、初発の感想を持つ。 ・ 一人一人の感想や疑問から学習の課題を決める。【別紙 8】 ・ 課題を中心に話し合い深めていく。 ・ 感想をカードにまとめる。 ・ 感想を友達と交流する。 ・ 斎藤隆介の作品を読み、作品カードを作り、交流する。 	
<p>ウ 連携先：神小研国語部駒ヶ林小学校長 藤田昌央氏 神戸市教育委員会指導課「力のつく授業」学校支援チーム</p>	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会と連携し、「力のつく授業」として、2 週間に 1 度、指導主事や協力員に来ていただき、授業力の向上や指導法のアドバイスをしてもらった。 	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修として職員で意見交換を行い、今後の課題解決学習のあり方を検討した。 ・ 子どもたち一人一人の感想や疑問を学習課題として設定する「課題解決学習」のよさについてみんなで議論を行った。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想カード【別紙 9】 ・ 授業中の発言やノートからの分析 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習前には自分の意見に自信が持てなかった子も、積極的に意見を述べるようになり、思いを相手に伝えることができるようになってきた。 ・ 子どもたち一人一人の感想や疑問が学習課題として取り上げられることで、自分の考えがクラスの学習に生かされていることから、主体的に授業に参加することができた。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決学習ばかりに頼らず、言語活動を単元全体に位置づけ、コミュニケーション能力を高めていくことも大切である。 	